

F-37 家庭経営の変動に関する生活史的研究—福島県の農・山・漁地区を例として。  
2 生活の変容 2) 衣生活 ○ 県立米沢女短大 徳永幾久 他5名

目的 衣生活変容の要因や契機を 主婦の着装や衣生活用品使用の実態を通じて究明し、家庭経営の変動要因との関連を明らかにしようとするのが目的である。主婦が社会および家庭の変化に対応する調整手段の一つに、着装行為があるか。前報では 湖南地域の70~20才代農家主婦が経験した65年間の着装の洋風化過程を調査し、主婦が内外の変化に対応した態様結果から、法則性のあるものを取上げた。本報では更に相馬・田島地域を加えた主婦を対象とし、主婦に着装を決定させる要因や契機について、衣生活全般にわたる洋風資料を設定項目に選び、それがどのようにして家庭に定着するか過程に焦点をあて、社会の近代化による家庭衣料の洋風化 既製品化などの衣料調整を考察し、衣生活面から家庭経営の変動要因をみようとした。

方法 郡山市湖南地域(農村)主婦143人、会津田島地域(山・農山村)主婦51人、相馬市域(漁・農漁村)主婦66人について、湖南地域は1872年8月、相馬・田島地域は1873年8月に設定項目による面接聞き取りおよび補足調査を行い、結果を資料とした。

結果 ①衣料の洋風化の傾向は各項目に対し、地域の特徴が顕著であるが、同地域の項目間の関連は時間差がみられるが同傾向で、地域的影響とみられる。②変化の契機は村落への帰属意識か、流行追随心理かその傾向のものが多く、地区により遷次意識のない贈答やセールス、実物による情報が契機となるものもみられた。③既製衣料品の導入は洗濯機の導入から誘導され、新製品を導入し経営を近代化しているが洗濯機は主婦の口出しで購入されたものが多く、変化の重要な要因と考えられる。